

西濃地区公立小中学校事務職員会会報

日 時：平成26年6月2日（月）14:00～
会 場：大垣市スイトピアセンター

研修① 講話 「教育に関する今日的課題と学校事務職員への期待」

講師 西濃教育事務所長 福地 淳宏 様



○西濃はひとつ

教員の会や教育長会でよく話すことは「西濃という地域に勤めたこと。西濃はひとつ。」ということである。西濃という地域性は他にはない。岐阜にも無いし、東濃や飛騨にも無い。西濃地域というひとつの連帯感があるのではないか。かねてから、愛着心や思い入れが仕事の質を左右すると思っている。私は出身は西濃であるが、西濃の勤務は初めてであり、勤めてみるととても良いところだと感じる。西濃地区は細長いように見えるが実はそれぞれの地域の距離感は近い。西濃地区には名所が多くあり、ひとつの地域として良いところだと思う。

○教育とは、教師とは

義務教育は子どもの心身が共に成長発達する時期である。学校の先生方、事務職員のみなさんは子どもの教育に精力をあげている。

教育とは、教員だけでなく、家庭も地域も社会も連携して学校教職員全員でやっていくことである。=「不易」(いつの時代も変わらない)

教育こそが、いかなる環境においても、自分で自分の将来・未来を描き、前向きに生きようとする・拓こうとする子を育てることができる。

教師とは崇高な使命を担う専門職である。今の世の中、子どもを取り巻く環境が変わってきていている。現代社会の特徴や実際の状況をしっかり捉え、具体的に対策を打ち続けなければ、教育は退化する。そのヒントは教育現場にこそある。(現実原則)

不易の精神と現実原則が、特に学校教育には求められている考え方ではないか。

○子どもたちを待ち受けている現代社会の特徴

まず1つ目は、これまで想定してこなかった未知の状況が待ち受けている。アメリカの大学で、今の子どもたちが将来就く職業の何パーセントかは、今は無いものが新たな職業としてでてくると言われている。2つ目は、物理、量的には豊かな状況になってきたが、一方で質的、精神的な豊かさが新たに求められる。3つ目は、少子高齢化、グローバル化がどんどん進む一方で、人口減少が進む。岐阜県も日本全体もそうなってきてている。このような現代社会の特徴の中で、子どもたちは生きていくのだと思う。

○これから子どもたちに必要な力

その中で生きていく上で子どもたちや私たちに必要なのは、活用する力である。情報の持つ意味が大きくなる一方、すぐに陳腐化するが、瞬時に情報を得て解決していくことができる。次に、自立した個人が求められる。人口減少は進み、少子化も進むが、世の中は複雑になり色々な問題が増える。自らの考えをもって判断する。みんなについていく時代はもう終わりである。だからこそ、仲間同士繋がったり力を合わせたりすることが、以前より大事になってくる。東日本大震災のときに、日本の持っている良さについてよく言われた。これが今、学校教育で子どもたちにも求められている学力や必要な人間関係育成能力の根本である。人と人との協働、絆が重要となる。

○学校現場を取り巻く教育課題

まずは学力保障である。すべての子どもたちに知識、技能を身に付けさせる。ただし、知識、技能だけではどんどん古くなってしまう。新しい知識だったものがもうすでに古いものになってしまふ。それを実際の社会生活で使いこなすことができなければ、本当の学力と言えるのだろうか。また、意欲も学力である。いろんなソフトができ、いろんなものができるてくる。それに対して、前のやり方でいいと思うか、面白そうだからやってみようと前向きに意欲的になるか。この意欲も学力である。次に子どもの人権である。いじめや自殺問題、あるいは不登校、体罰。子どもや大人の人権が大きな課題であると言われている。もう1つは安全、安心である。命を守る訓練と学校では言っている。（避難訓練とは言わない。）防災、食の安全（異物混入）、アレルギーとある。アレルギー対応ではエピペンの問題もある。

学力保障と子どもの人権の問題と、安全安心の問題は待ったなしの学校現場を取り巻く教育課題であると思う。

○気になる動向

国では現政権の下で積極的に改革案を打ち出されていろんな取組をしている。教育委員会制度の見直しについての発端は、一昨年度の他県の事案である。事案と戦後の教育制度の見直しとの流れがひとつになって教育委員会制度改革という取組になっている。制度が変わるということは、法律が変わることである。何が変わるのが受け止めなくてはいけない。しっかりと見定めていく必要がある。

また、道徳が教科になる動きがあり、グローバル人材の育成（小学校からの英語教育）、次期学習指導要領がある。学習指導要領が変わったばかりだと思うと、もう次の学習指導要領の検討に入っている。学習指導要領が変わると教科書が変わり、教科書が変わると教材が変わる。

児童生徒の状況として、少子化に伴う学校統合が起こる。昨年度、揖斐郡内の小中学校で統合された。現在、中学校の統合が西濃管内で進んでいる。西濃管内ではさほど大きな問題はないが、学校規模が小さくなったり、通う学校が遠くなったりという問題はある。児童生徒が少なくなると教育活動の質の担保も問題になる。

教職員の状況として、大量退職大量採用という言葉をよく聞くと思う。これからも新規

採用者が増える。

さらに特別支援教育については、個別の支援が必要な児童生徒がデータ上で増えているのではないか。別の見方からすると、特別支援教育や子どもの教育について非常に理解が深まったと言える。ユニバーサルデザインの視点が大きく言われるようになってきた。障がいのある子にとってとても分かりやすい指導は、障がいのあるなしに関わらず、すべての児童生徒にとって非常に親切な指導である。

次にネット社会である。県庁に勤めていると県内のいろんな事案が報告される。驚いたのは、ネット上に授業が生中継されたことである。授業中の風景をネット上にアップする。先日、とある高校で爆破予告があったが、驚いたことの1つにマスコミがすぐ動いたことである。情報が瞬時に拡散する。今は自分中心世界になっている。昔は自分からお店に行って商品を買うが、今はインターネットでクリックしたら翌日配達される。

PM2. 5、黄砂、鳥インフルエンザ、ゲリラ豪雨など以前と比べると非常に気象の変化や自然現象のショッキングなことがよく起こっている。

特に学校教育として抱えている課題というと、次の5つではないかと考える。

1つ目は意欲や活用する力を含めた学力向上である。よく話題になるのは、学力テストである。結果を公表するのかしないのかなど、そんなことばかり話題になる。

今年度、小学校の教科書採択替えの年度である。来年度に向けて教材や予算要求されているか。教材は結構な金額になる。教科指導の充実。教科書が変われば当然題材も変わり、必要な教材も変わってくる。

2つ目はいじめ、不登校である。国が基本方針をだして、現在各学校に基本方針ができる。すべての学校にいじめ基本方針をホームページにアップするよう依頼している。一度自校ホームページを確認してほしい。また、スクールカウンセラーを今まですべての中学校に配置し、小学校にも重点校に配置していたが、今年度からは全中学校区にスクールカウンセラー配置となっている。中学校で危機事案が発生するとスクールカウンセラーが非常に大事だが、中学校での不登校やいじめ等の問題についての根は深く、小学校のときからの未然防止にしっかり向かわないと根本的な解決にならないのではないか。そのため、中学校区の不登校の状況や学校の状況でスクールカウンセラーを何名、スクール相談員を何名と配置している。すべての学校に定期的に行けるように県教育委員会は計画して配置している。ネット上のトラブルについては、情報モラルという言葉で片付けられない。ネットトラブルもいじめの大きな要素である。確実にネット上の誹謗中傷の件数が昨年度から増えている。県総合教育センターにネットパトロールという専門の方を1名雇っているが、なかなか見つかりづらい。

3つ目は安心安全である。昨年度のデータで、西濃管内で食物アレルギーのエピペンを持っている児童生徒は40名ほどである。担任の先生や養護教諭が使用し事なきを得たという事例が増えている。

4つ目は危機管理である。不祥事の根絶と生徒指導事案の対応と外部侵入、不審者など。

5つ目は若手育成である。大量退職大量採用で圧倒的に20代が増えた。また、今年度採用試験で年齢撤廃した。県教育委員会は一度教員を退いた方や講師として勤めている方

でよい人材を採用しようとしている。新規採用は今年度西濃管内で100名である。（内訳：教諭88名、養護教諭6名、栄養教諭2名、事務職員4名）来年度はもっと増えるのではないか。採用が増えないと当初欠員が減らない。西濃管内の当初欠員がなかなか減らない。

昨年度から新たな取り組みとして再任用制度を行っている。若手育成や大量退職大量採用の行く末に退職された方も活躍の場があり、若手を効率的に育てる。再任用を自ら希望する方は増えているが、新規採用教員の育成との兼ね合いで考えている。最初から担任を持たせるのではなく、まずは学校現場やいろんなところで研修しながら副担任として勤め、翌年度は経験を活かして学級担任をもつ。そこに再任用の方が指導助言する。このシステムで新しい初任者研修の若手育成システムに現在挑戦しつつある。これは拠点校指導教員が今後どうなるかという点もあるが、新たな取組として始まりつつある。再任用の方の数と照らしながら今後成果も踏まえてみていく。県内でこの取組をしている新規採用者は15名である。事務職員の再任用も進んでいる。今年度以降再任用については少しずつ増やしていく予定である。

今年度主幹教諭が増えた。（全県で50名）西濃管内は主幹教諭が11名。今年度は生徒指導関係以外に、特別支援教育、多文化共生の新たな主幹教諭を任用している。西濃管内では特別支援教育関係の主幹教諭が1名、多文化共生の主幹教諭が1名配置している。次の世代を育てる学校教育の効果的な人材配置等を検討しながら進めているところである。

○第2次岐阜県教育ビジョン

今日お話ししたことは第2次岐阜県教育ビジョン（平成26年度から5年間の県の教育振興計画）にまとまっている。インターネット上に概要版が載っている。自立、共生、自己実現の3つの力を育むために家庭、地域、学校が地域社会人を育成し、西濃、岐阜県、日本を担う子どもを育てるということである。5つの基本目標が設定されており特にその中の重点政策の3つは、5年間で個別・具体的に確実に行う。1つ目は学力向上を核とした小・中学校教育の改善である。例えば、最近小学校では教科担任という言葉が聞かれるのではないか。昨年度今年度と指定になっている学校があるが、小学校でも高学年において取組が少しずつ始まっている。2つ目は高等学校改革である。子どもが減るのは小・中学校だけではない。定員割れしている高等学校もあるが、その中で高等学校は今後どうあつたらよいのかが県の大きな課題である。3つ目は特別支援学校の充実である。

それぞれ基本目標をもとにいろんな項目があげられているため、ぜひ読んでいただき、岐阜県の教育が何を大事にしながらどの方向に向いているのかの参考にしていただきたい。

私がよく話す好きな言葉がある。

「己の立てるところを深く掘れ。そこには必ず泉あらん。」

明治時代の文芸評論家 高山樗牛の言葉である。

なぜ自分がそこにいるのかと思うわけであるが、一番大事なことは、あなたが今就いている職、その場、持ち場、そこで全力を尽くして懸命に仕事をしてみると、なぜ自分がそこにいるのかということの付加価値がある。だからやりがいを感じるという話である。

事務職員は特別の採用である。事務職員は教員とは違う。県の知事部局が採用試験を行い、県教育委員会が任命をしている。学校教育を推進するために理由があつて教育を深く理解する行政職として、学校現場の唯一の行政職として、必要だから学校に事務職員を置いてもらうわけである。教員でない立場での学校運営参画がミッションである。

学校経営に関する内容、一般的な事務に関する内容、標準的職務内容は私よりも事務職員の方がよく理解し研究している。しかし、各学校によって内容が違う。単なる事務処理の枠を超えた学校現場の実態に即した創造性な仕事である。事務職員の創造性が鍵であり、まさに学校の縁の下の力持ちとして、学校運営を担う重要な役割である。

事務職員との出会いについて知り合いに聞いてみたところ、事務職員のおかげで学校の好感度がアップした。学校の環境創造主である。授業のため、子どものために無駄なく効果的な教材整備に力を貸してくれた。明るい会話のムードメーカーだった。いざというときの職員室の守り神で、トラブル発生時の客観的で確実な役割遂行。など多くの声があがった。

事務職員にとって実務力、人間力、対応力の3つは瞬時に求められるものである。事務職員は教員が子どもにつく時間（環境）を創出している。教頭、教務主任、生徒指導主任の後方支援。教員でない立場やアンテナがある。法令や規則に照らし合わせる。その根拠はどこにあるのか、教員の弱い部分である。

危機管理の「さしそせそ」（最悪の想定をしながら、慎重に、素早く、誠実に、組織的に）この中の過程で事務職員が強くかかわっている。事務整理、情報整理能力について、目を光させてほしい。また、会計の指導もお願いしたい。事務職員の立場から教員を見て、おかしいと思うことはすぐ管理職へ伝えてほしい。

○事務職員の知恵を

学校のスリム化、多忙化の解消はよく言われているがなかなか進まない。どこからどこまでが仕事か分からない。教育に無駄はつきものとごまかしているのではないか。無駄はあっても無駄遣いはいけない。事務職員の目で見ていただいて、もう少し整理できるのではないか、助言してほしい。

問題が起きたときはチャンスである。苦情（外部電話）について教員、教頭も対応するが、事務職員が第三者的な立場でやり取りをすることでおさまることがあったり、あとで教頭にフィードバックしていただくと、関係がうまくいったりすることもある。苦情の窓口ではなく、事務職員の社会性や教育職でない立場で対応できる。

不祥事の根絶は、県教育委員会でもずっと言っているが、法律で罰せられることは当然である。法には引っかかるがどう考えても教育公務員としていけないと思うものについてはしっかり襟元を正していく必要がある。コンプライアンスという精神や社会の目線、事務職員の立場での指摘も、管理職にとって助かるのではないか。

西濃の子どもたちのために学校教育が充実するよう、ぜひ事務職員の方のお力をお借りしたい。居心地のよい職場をつくっていただき、明るく元気よく事務職員のみなさんが勤務できる職場であるとよい。気づかれたことがあれば、教えていただきたい。

研修② 事務指導 西濃教育事務所 学校職員課

学校人事係 上野 寛子 様

学校現場時代では事務職員の方に大変お世話になった。（文書管理・人間ドック・年末調整など）事務職員の方のおかげで教員は職務を全うできるのだと感じた。

私自身が一番支えられたのは、事務的な管理だけではなく、みんなの声かけである。事務職員からの声掛けは教員にとってなごみであり、安心感がある。

『お願い』

教員が育つ条件の中の1つに、出会いに囲まれることがある。教員は子供たちを指導するが、実は子どもたちに教えられ、保護者に教えられて育つ。子どもたちの失敗やケンカなどを通して、改めてその子の気持ちに気づいたり、傷ついた子供に寄り添ったりしながら、人として成長する。学校職員の1人として事務職員の存在は大きい。教員を育てていく1人としていていただけたらと思う。

学校経営計画をもとに校長先生方は「今年度1年間、こんなことを核にして学校経営していくこう。」という思いがある。核に基づくいろいろなものが必要になってくると思う。人であり、物であり、そういうものの管理や予算化などたくさんあると思う。ぜひ校長先生の経営方針に従って今年度必要になるものということを、見通しを立てていただきたい。

様々な事務手続き等があると思うが、終礼や職員会等で教員に事務処理の方法やスキルを教えていただきたい。

非常勤講師実績簿等の事務手続きについても本人が気づかない部分があると思うため、ぜひ事務職員みなさんの協力を得ながら適切に処理をしていただきたい。

校務が膨大なため、くれぐれも健康管理にはご留意いただき（気分転換や趣味を持つなどストレス発散を）、同時に交通事故が増加しているためご留意を。

1年間通してお世話になります。今後ともよろしくお願ひいたします。

研修② 事務指導 西濃教育事務所 学校職員課

管理調整係 後藤 清 様

事務職員という立場での勤務はいろんな諸問題に直面する場面が非常に多いと思う。そんなときは遠慮せず管理調整係に相談していただきたい。

事務職員として力の発揮どころであり、存在意義を高めるところで非常に大事なことは目配り、気配りである。事務職員の方に目配り、気配りをしていただきて、学校現場を支えていただいている。前向きに（積極的に）職務にあたっていただきたい。

教職員から事務職員に様々な相談があると思うが、そのときは法令等によって判断する。法令等に従って我々公務員は仕事をしている。手引き等にガイドラインが記載されている。これらによって直接に判断していただき教職員に助言、アドバイスをしていただきたい。

予算の用途は明確に決まっている。（議会で承認された。市民、県民のみなさんに了解いただいた。）限られた予算をいかに効率的に適切に執行していくか、まさに事務職員の大



なところである。適切な執行等を十分に意識して業務にあたってほしい。

研修③ 研究推進委員会 研修計画について



研究推進委員長 大垣市立西部中学校 若山 優子

西濃地区公立小中学校事務職員会の平成21年度の研究構想図に示された、実務力・対応力・人間力の3つの力が学校事務職員に求められている資質や能力であり、この3つの力を高めていくことが事務職員としての資質向上となり、研究テーマである「子どもの豊かな育ちを支援する学校事務」に繋がると考えている。

研究推進委員会では、平成25年度から第2次長期研究計画を策定するにあたり、平成24年度に会員にアンケートを実施し、その結果、危機管理や情報管理などの基礎知識を必要としていることが分かり、長期研究計画のテーマを「学校にある様々な危機に対応できる事務職員を目指そう」とした。

さらに危機管理について研究推進委員会では、SWOT分析を使用し意見交流を行った。その結果、情報モラルの中の、特に著作権を重要な危機管理の1つとして位置づけ、事務職員自らが学校現場において、著作権についての情報提供や啓発を発信し、推進していくことを目指す研究内容とした。

また、実務力、対応力、人間力の3つの力をつけていく中で、特に対応力に重点を置き、秋の研修会において渉外、災害、財務、情報についての危機管理能力を高める研修を計画した。

最終年度（平成29年度）には、4年間の研修で学んだことを自校の教職員へ発信し、自校の危機管理体制を整える、リスクマネジメントの手法を学ぶ研修を行い、学校経営に参画できるように考えた。

昨年度は長期研究計画の初年度にあたり、渉外について研修を行った。講師の方から、真のマナーとは、相手に対する思いやりや敬意を言葉や態度で表すことを教えていただいた。クレーム対応では、3つのクレームがあり、その中でも信頼や期待があるからこそ不満に思われることがあるなど、学校でも思い当たる内容があった。

今年度の研修会では、災害についての危機管理の研修を行う予定である。平成25年度当初の計画では、財務についての危機管理となっていたが、資料のように、昨年度の危機管理のアンケート結果から、できていない、あまりできていないという会員の回答の多い項目を再検討し、私たち事務職員が危機管理意識を持つことがさらに重要ではないかと再認識し、研修内容を変更した。

最後に、5年の研究実践の経過を見るために、今年度も秋の研修会前後に2回アンケートを実施する。

みなさまのよりよい研修となるようご協力をお願いします。

諸連絡

① 総会

ご来賓あいさつ

西濃地区小中学校長会長 大垣市立東中学校 奥田 修二 様



学校の中では管理職も含めて教員が事務職員の方々に大変お世話になっている。

みなさんはどれぐらい学校の経営に参画をしていただいているですか。運営委員会、企画会に参加していますか。西濃校長会で企画会や運営委員会にぜひ事務職員も入ってもらうよう校長先生方にお願いする。

職員室の中でいろんな事務をしていただくのに、職員室の中が楽しくないと子どもたちにいろいろな影響があると思うので、楽しみながら仕事をしてほしい。

先日、大垣市で学校保健会の総会が行われた。講演の中で、プールの管理について話をされ、夏前後にプールの水を流したときに、学校の外に流れた水の影響で魚が死んでしまう、薬品の入った水を中和せずに流してしまうなどいろんなことが起こっている。事務職員から声かけをして気をつけてほしい。

予算要望して購入した備品について、使用せずにそのまま置いてあることはないか。授業の様子を見ていただいて備品の活用の確認をしていただきたい。

教員の現金の取り扱いについて、目を光らせて見てほしい。昨年度、西濃管内で学校の侵入で話題になった。4月以降は車上狙いが増えている。気をつけてほしい。

学校の外でも中でも熱中症は起こる。子どもたちは気温の変化に対応できにくいため暑くなるときに熱中症になりやすい。夏休み付近まで小中学生は気をつけないといけない。子どもたちの様子を見ながら、職員室等で熱中症について話題にしてほしい。

職員室に子どもたちが出入りするとき、遠慮せずに職員室の出入りの仕方や話し言葉等を子どもたちに指導してほしい。

このようなことをしていただくことが、学校経営参画になる。

今年度1年間よろしくお願いします。

新会長あいさつ

大垣市立赤坂中学校 小川秀文

承認いただきありがとうございます。

歴代の役員の皆様が積み上げた貴重な研修の機会を無駄にしないように、私たち事務職員が学校を離れて研修を受けることが、結果として学校や先生方にとってもメリットがあるような研修会にしたいと改めて思っている。

各郡市の理事や研究推進委員、研修指導委員、情報担当委員の協力をいただきながら、西濃の会員110名のレベルアップに繋がるように考えていきたい。



議事

議案書どおりにすべて承認

②連絡

◎研修指導委員会

委員長 海津市立吉里小学校 藤井由香

実務研修を担当する。活動内容は主に3つ。1つ目、各都市からの質問窓口及び回答を行う。都市内で質問の回答ができなかった場合や確認したい場合に各都市の研修指導委員が窓口となり教育事務所へ問い合わせをする。回答はメール配信や西濃事務ネットに載せ、会員へ情報提供を行う。2つ目、若年層研修の企画運営。8月11日午前中に経験年数1年目から3年目の事務職員を対象に行う。3月は新規採用事務職員研修を行う。3つ目、西濃事務手引きの管理を行う。各都市で担当が決まっている。その都度修正確認をお願いしたい。年度始めの事務手引き、新規採用者の事務手引きは研修指導委員がより使いやすい手引きとなるように加除修正を行う。

◎情報担当委員会

委員長 摂斐川町立清水小学校 若山春樹

西濃事務ネットの更新作業を行う。西濃事務ネットにさまざまなデータや資料を載せていただきたい。アクセス数が1日平均30～40件である。後日メールで西濃事務ネットのアドレスを配信する。ぜひ活用してほしい。

会員専用ページのIDとPWの確認。

メーリングリストについて。メーリングリストから届いたメールには返信しないように。メーリングリストに登録しているメールアドレスを変更したい場合、清水小まで連絡を。

◎県事研 理事

神戸町立神戸中学校 羽田博美

平成26年度は岐阜県小中学校教育研究会事務職員部会が発足して50年目になる。半世紀という長い歴史の中で諸先輩方の努力によって、この組織が継続、発展してきたと感じている。それに伴って、8月に行われる研究大会は50周年記念大会として計画を進めている。会場は中津川市 東美濃ふれあいセンターである。遠距離ではありますが、ぜひみなさんに参加していただき、研修を深めていただきたい。

永年勤続者として表彰された先輩方のお名前を研修会資料と一緒に配布。次号の「おんさい」に永年勤続者のメッセージが紹介される。

今後とも県事務研の活動にご理解とご協力をよろしくお願いします。

◎県事研 総務部

大垣市立星和中学校 伊藤 卓

活動の重点は、広報紙「おんさい」、会誌、ホームページによる積極的な情報提供、ホームページを利用した会員間の活発な情報交流の場の提供、研究情報のタイムリーな提供、学校事務の効率化のための表簿及び事務日誌の改善を行う。

先日発行した「おんさい」にPDFのしおり機能を入れ、読みやすいようにした。正確で詳細な情報を発信している。みなさんにご理解していただきたい。

県事務研ホームページのIDとPWの確認。

教育表簿のご意見がある場合、星和中まで連絡を。

◎県事研 研究部

池田町立温知小学校 志邑みずほ

第4次研究構想の成果や課題を考察し、次の研究構想を練っていく時期である。

7月29日に行われるスキルアップ研修 総合講座①を担当する。課題別マニュアルに取り入れられているフローチャートの手法を使用した研修。課題別マニュアルは県事務研ホームページからダウンロードできる。ぜひご活用を。

今年度も県事務研評価と考察を行う。10月ごろにメール配信予定。

◎県事研 研修部

関ヶ原町立関ヶ原中学校 小出 樹

「おんさい」137号に研修部の活動内容を記載。

スキルアップ研修では今年度新たに基礎講座として教育理解について行う。総合講座②を10月に予定している。要項完成後メール配信予定。

第22回岐阜県小中学校事務研究大会50周年記念大会の要項を6月4日にメール配信予定。申し込み締め切り6月13日。